

第51号 学年短信：ご寄稿掲載漏れのお詫び

昭和36年卒からいただいた「学年短信」、たいへん面白いと感心しながら、なぜか抜かしてしまったドジ（特に名を秘す）がひとり編集グループにおりました。

書いてくださった関根眞佐子さまは、次号回しでもいいと寛容におっしゃいますが、あまりにもつたないないので、お詫び傍らここに紹介いたします。誠に申し訳ありません。

●昭和36年卒

関根眞佐子

千葉から、ちよつと遠方、日光連山のふもと、杉並木のほとりでも、なつかしい同窓生が：。

かかりつけの足尾の病院に伺ったら、今度千葉から週一回、名医が：。「先生、先輩？」慌ててカルテを見た「いえ、後輩です。」

義妹の娘が結婚の挨拶に来てくれ、はつらつとしたお寺の跡取りも「千葉高です：。」。ユーザー協会の立食パーティー後輩だった。話しがはずんだ。すごく嬉しいんです。こんなにもなつかしくって：。

千葉の実家に泊まりがけで通った、創立125周年祝賀

会、ゴルフコンペ、喜寿の会、

「今度は傘寿やろうね」

還暦に畔の宿で同窓会、心は少女等のままに年経て

女子だけ相手変わって運動会のダンス、仮装行列、マラソン大会、いろんなことがあったなあ、楽しかったこと。恋もして、失恋もして：。

仲間が何人亡くなつて、「あちらで待っているよ。早く来いよ」「まだ忙しくて、ごめんね」いそがしくしんどい日々の多かれど何故か愉快なり生きるといふこと

「君達の分まで私達楽しく生きるから見ててね」

ほっと一人静かなる時を愛しめば有限とう生の無限に広し